

令和 6 年 6 月 21 日 基地周辺対策特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8 人)

委 員 長 山崎 年一

副委員長 中川 智之

委 員 中野 友博、山代 英資、岡 和明、藤川 和弘、西村 一啓、
日城 究

議 長 北地 範久

副 議 長 寺岡 公章

○欠席委員 なし

○山崎委員長 皆さん、おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから基地周辺対策特別委員会の会議を開きます。

開会に当たり、市長に御出席いただいておりますので、御挨拶を伺います。

市長。

○入山市長 基地周辺対策特別委員会、開催ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○山崎委員長 それでは、日程に従いまして進めさせていただきます。

まず、日程 1、執行部報告事項についてを議題といたします。

執行部から報告をお願いいたします。

危機管理課長。

○田中危機管理課長 おはようございます。危機管理課長、田中でございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは、資料 1 から資料 4 により定例の報告をいたします。

今、画面に出ていると思います、1 ページ、資料 1、阿多田地区航空機騒音状況記録表を御覧ください。

こちらは、阿多田地区における日常の航空機の騒音状況について、漁協の職員の方にお願いをいたしまして、御自身や住民の方が感じたことの実情等について記載をお願いしているもので、令和 6 年 2 月から 4 月までのものになります。

件数でいきますと 2 月が 8 件、3 月が 2 件、4 月は 4 件、合計 14 件の記録が残されております。こちらの報告内容につきましては、毎月、防衛省中国四国防衛局岩国防衛事務所のほうに騒音苦情の実態として情報提供するとともに、騒音対策への配慮、それから、訓練等の情報提供について、毎回お願いをしておるところでございます。

続きまして、2 ページのほう横長のものでございます。資料 2、左上に阿多田島における d B 値測定表と書いてある航空機騒音自動測定装置による測定結果を御覧ください。

こちらは、防衛省が阿多田島漁協の屋上に設置している騒音自動測定器で測定した航空機等が飛来した際の音を 1 日ごと、発生時間別に 70 デシベル以上のものを記録をして、ま

とめたものでございます。こちらは、中国四国防衛局から提供をいただいた情報になります。90デシベル以上となった黄色いマーカー表示のところ、こちらを数えてみますと2月が94回、3月が74回、4月が87回で、3か月合計は255回となっております。前回、御報告いたしました昨年の11月から今年の1月までの3か月の合計が249回でしたので、比較しますと回数にして6回、率にしても2%程度、増加をしているという状況でございます。

なお、令和5年の2月から4月の間の合計値が210回でしたので、比較すると回数では45回、率にして21%程度、増加しているということになります。

ちなみに11月上旬に空母艦載機が岩国基地のほうに帰還して以降、4月から翌年4月までの間というのが騒音発生が増加する傾向がございます。令和4年11月から令和5年4月までの6か月間の合計を数えてみますと386回でしたが、令和5年11月から令和6年4月までの6か月合計が504回となっております、前年と比較しますと31%程度の増加が見られております。

少しページが飛びます、8ページ、資料3をお願いします。こちらも横長ですが、資料3、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況というのを御覧ください。

こちらは防衛省が岩国航空基地の周辺の市町25か所に設置しております騒音測定器から計測された値をうるささ指数に変換して集計したもので、こちらは中国四国防衛局のホームページ上で公開されているものでございます。初めの表は月別の平均値を掲載したもので、8ページから10ページまで、こちらが2月、3月が含まれております令和5年度分になっております。11ページから13ページまでが、4月が含まれる令和6年度分になっております。14ページから22ページまでが令和6年2月から4月までの毎日の計測結果を示した表となっております。

大竹市の観測地点ですが、No. 7の阿多田島漁業協同組合とNo. 9のサントピア大竹の2か所となっております。こちらの月別平均値の表の上の段が、これL d e nという値の表の平均値でございますけれども、観測地点のうち居住地に該当するものに限定して比較してみますと令和5年の4月と8月、それから、令和6年の2月を除きまして、阿多田島No. 7のところが毎月一番高い数値を示しているという結果でございます。

ページがちょっと飛びまして、23ページ、縦長の今度は資料4をお願いいたします。

こちらが、資料4、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況比較資料となっております。先ほど見ていただきました資料3の今度はW値のほうですね。この月別平均値を折れ線グラフで表したのになっております。滑走路の沖合移設前からの状況と比較するため、W値によるグラフで表示しております。No. 7の阿多田島とNo. 3岩国基地の北側にございます岩国市三笠町東中学校の数値の比較となっております。データの見方でございますが、緑色の線が、平成20年度で滑走路の沖合移設前、青色の線が、平成28年度で沖合移設後、黄色の線の令和元年度とピンク色の線の令和5年度が空母艦載機移転後の計測値の比較として表示しております。令和6年度は、まだ4月のみの表示でございますので、表の左上のほうに黒いペケ印が1つ示されております。令和元年度と令和5年度と、ほぼ同じぐらいの値となっております。令和元年、令和5年度の数値を見てみますと、令和元年度と折れ線グラフの動き、ほぼ同じような動き方ではございますが、7月と9月で過去最大値を

記録しているという状況でございます。10月に一旦、低下するんですけれども、また11月から再び増加傾向に転じまして、令和6年の2月と3月では高い値を記録しております。

定例の資料については、以上になりますが、今回、追加で24ページ、資料5を掲示しております。こちら令和5年度の米軍機の航空機騒音発生状況等の概要でございます。こちらは広島県が半年ごとに記録を出しているものです。

項目幾つかございますが、項目3、概要の(3)集計結果の表がございますが、国設置の騒音の測定器、航空機騒音で70デシベル以上が発生したものについて回数等を記録し、県内設置箇所数6地点の比較をしたものとなっております。

令和5年度ですが、阿多田島の発生回数4,740回と県内最多であることは、これまでと変わらないんですが、西栄にありますサントピア大竹におきましても1,653回ということで、前年度の1.2倍に増加しております。

ちなみに、昨年12月の委員会で御報告いたしました令和5年度の上半期の、9月末までの実績では、阿多田島が2,144回、西栄が755回でございましたので、下半期が阿多田島では2,596回、西栄が878回と下半期のほうが発生回数が多いということが分かります。

1枚めくっていただきまして、次のページが各市町での米軍機の低空飛行の目撃情報を集計し、比較した表となっております。(1)から(4)までございますが、この順番に令和元年度以降の年度別の集計値、令和5年度の市町別の集計値、それから、曜日別の集計、それから、時間帯別の集計という順に表示されております。

(2)の表を見ていただきたいんですけれども、大竹市の表、こちら令和4年度の表と比較してみましたところ、目撃実日数が令和4年度では190日、つまり30日増加していると、目撃件数が、前回は915件だったということで、266件増加しておりました。

以上で、定例の報告を終わります。

○山崎委員長 ありがとうございます。

それでは、報告いただきました件につきまして、よく分からない点等ございましたら、御意見を伺います。

なお、今回、資料5で新しく資料を提供していただきましたので、非常に分かりやすくなったかなとは思いますが、今日、初めて見た方が、委員の大半だと思いますので、なかなか理解するまでには時間がかかるかと思いますが、質疑等がございましたらお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 ありがとうございます。

それでは、質疑がないようでございますので、質疑を終結いたします。

ここで委員長から執行部にお尋ねをいたします。

令和4年9月20日に全面施行されました重要土地等調査法ですが、岩国基地が令和6年4月12日に注視区域及び特別注視区域に指定されたことによりまして、阿多田島と甲島が指定をされたようであります。このことについて執行部のほうに説明会か何か、お願いできないかというお話を事務局を通じてお願いをいたしました。そのことについて御報告がございましたら、よろしく申し上げます。

危機管理課長。

○田中危機管理課長　こちら国のほうで決定を受けまして、令和6年4月12日、議会の議員全員の皆様にPDFの資料を提供しております。既に御覧になったかと思うんですけども、実際、国のほうから、内閣府のほうから説明を受けまして、私どものほうで説明ができる内容というのが、これ以上のものがないというのが現状でございます。

例えば、国のほうから説明がしてもらえないのかということですが、国においては、説明会を行う予定がないということでございました。

なお、国におきましては、懸念があるのは土地の取引のことになるかと思うんですが、宅地建物取引関係事業者に関係法令に関する周知を行うなどの適切な届出ができるような広報を行っているほか、住民の方、それから、こういった事業者の方を対象にして、コールセンターを設置して、直接、個別の問合せに一元的に対応していらっしゃるということでございました。

以上でございます。

○山崎委員長　ありがとうございます。

ただいま危機管理課長のほうから御説明をいただきました。皆様には、これで御理解をいただけると思うのですが、よろしく願いいたします。

ただ1点、危機管理課長にお伺いするんですが、阿多田島の住民の皆さんについては、どういうふうにお知らせなさるのかなというのが、土地規制法でいうと大体60坪、約60坪ぐらいから届出をなさないと、売買する場合にはという状況があると思うんですが、阿多田島の住民の皆さん、ほとんど御存じないような状況だと思っておりました。というのが、前回、基地周辺対策特別委員会で、阿多田島に騒音調査へ皆さん行かせていただいたときに、ちょっとそういう話も地元の皆さんとしてみましたら、初めて聞いたよということなので、全然、御存じないんだというような話でしたので、その辺のところの周知については、お手紙なり、広報なりでお知らせをしていらっしゃるのかどうかということについて、もし経過があればお知らせをいただけたらと思います。

危機管理課長。

○田中危機管理課長　こちらは、本市としても、内閣府のほうも、ちょっと気にされております。確かに委員長おっしゃるように、土地の所有権移転等について影響ございますので、指定告示後に広報の5月号とホームページのほか、内閣府作成のリーフレットこちらを阿多田地区に全戸配布をしております。5月号の広報の配布のタイミングで、これを全戸配布を同時にやっておるところです。現状、今のところ問合せといったものは、入っておりません。

以上です。

○山崎委員長　ありがとうございました。

それでは、ただいまのように阿多田島には、広報や通知が行っておるということでございますので、見落とされた方とお話をしたのかと思います。

ここからは、委員のみの協議となりますので、執行部におかれましては、御退席いただいて結構かと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、5月7日から5月10日まで、阿多田島の騒音調査に各委員の皆様の御協力をいただきまして実施をいたしました。サイドブックスに当時の結果が報告されておりますので、それを参照いただきながら、実際に行ってみられてどうだったのかと。特に、この委員会には、新人議員の方もいらっしゃいます。騒音の調査には初めて行かれたということもあろうかと思うので、新鮮な御意見等もあるかと思います。調査の結果を受けて、皆さんがどういうふうに感じられたかについて、お伺いをしたいんですが、よろしく願いいたします。

岡委員。

○岡委員 ちょっと感想をまとめましたので、述べさせていただいていいでしょうか。

今回の調査ですと騒音の目安とされる、極めてうるさいに分類される90デシベル近い音を何度か計測できて、体感できました。それは大変よかったと思います。

ただ、その結果が、ちょっと困惑するものがありまして、正直なところ、うるさいとは言えないのではないかというふうに、私は感じました。艦載機の動きについて、手に入るだけの情報に基づいて、最もうるさいのではないかと思われる週に行ったのですが、耐え難い騒音からは程遠いというのが、私の正直な感想でした。市内の国道2号線脇の住宅とか、あと私も騒音の非常に大きい場所にこれまで住んだことがあるんですけども、そういった場所に比べて騒音被害は、そのときに関しては、はるかに小さいのではないかというふうに思いました。

具体的にもうちょっと説明させていただきますと、音量でも、よく会話ができない騒音というふうな言い方があります。90デシベル近く計測したときの開け放した窓から騒音計をこういうふうに私が外に持って、そして、室内の人に何デシベルというふうに読み上げるのですが、そのとき私は、やっぱり自分の声をこの騒音計が拾わないように、ちょっと声を落として、何デシベルというふうに言っても、室内の記録する人が十分記録できたというのが実際です。

要するに、会話には、そのときは、そんなに大きな支障があったとは思いませんでした。むしろ阿多田島汽船の着岸中のデッキが90デシベルで、このほうの会話のほうが、ちょっと私は、しにくかったように思うぐらいです。計測時間も20秒程度で、音が聞こえ始めて、うかうかしてると計測しそびれるというような感じでした。あと、頻度も、大ざっぱに言うのですが、1時間、2時間にいつて数回とか、場合によっては、1時間で数回という感じで、1回飛行があると果たして、次、来るのかどうか、かなりの時間、待っていないてはならないような感じでした。

90デシベルを今回、体感できたとはいえ、騒音に困る住民が本当に多いなら、恐らく私たちの調査が、要するに、ごく一部しか経験できなかったのではないだろうかと、こういうふうに思いました。

何が欠けていたのか、ちょっと考えてみると、1つは、低空飛行というのが、私たちが行ったときはなかったんですね。いずれも全部、高いところで辛うじて、どういうタイプの飛行機なのかが分かるぐらい。私は実は阿多田島に行ったときに、今回とは別の全く個人的に行ったときに、低空で3機編隊で飛ぶっていうのを見て、そのときは確かにうる

さかったです。今回はそういうのはなかった。

それから、頻度ですけれども、今回いただいた最新の資料だと多い日は、例えば、2月22日には約50回飛んでいて、こういう日もあるんだなというふうに思いました。なので、私たちが行ったときは、かなり少なかった日なのではないかというふうに、やはり思わざるを得ない。

ただ、今の段階でも、このもらった資料を、この黄色い、これでも土日は1回も飛ばないというのが普通のもので、あと、平日でも飛ばない日っていうのがあるようなので、その点は幹線道路脇に住んでいる、あるいは鉄道脇、民間空港の進入路下に比べると、かなりいいのではないかとはいえるかと思います。

あと、早朝、夜間というのは、私たちは今回、全く経験できなかったことで、早朝に漁に出るのに備えて早く寝る人には、夜9時ぐらいの飛行でも、もう十分迷惑なんではないかというふうには言えるかと思いました。

結果として、引き続き、私は騒音の実態と住民の感覚をもっと把握できるように努力したいというふうに思いました。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

他にございませんか。

中野委員。

○中野委員 よろしくお願ひします。

騒音調査ということで、このたび初めて、この集音計を持っていかせていただいて、阿多田島のほうにお伺いさせていただきました。率直な感想としては、2日間、私、行かせていただいたんですけども、特に初日は飛行回数が多く、音も80デシベルを超えることが多かったっていうところなんですけど、率直な感想として、体感で今の音が70デシベルなんだとか、体感と数字に出る音の大きさっていうのが、ちょっとずれがあるなというふうに感じました。今のそこまで大きくないのではないかっていうものが、80デシベルを超えてたりっていうところで、あくまで数値で出すっていうところで、分かりやすくていうところで、今日も執行部から資料が出てくると思うんですけど、この体感っていうところであれば、数字っていうのは、あまり関係するものじゃないのかなっていうのが率直な印象でした。

なので、執行部からの資料で90デシベルを超えてるところを色分けしていただいているんですけど、実際にはそれ以上の体感で、うるさいと感じる方も中にはいらっしゃるんじゃないかということで、やはり現地に行ってみないと、その音の感覚っていうのは分からないっていうのが正直な感想でした。

この調査のときではないんですけど、私、個別に阿多田島のほうに行かせていただいたときに、音もそうなんですけど、飛行機が本当に低空飛行、島の上を通るっていうのを一度見て、こんなに近い距離でっていうことを体感したことがありました。音だけではなく、そうやって目に見えるものっていうところで、住民の皆さんが不安に思われるっていうこともあるかと思うので、継続して資料だけではなくて、実際に行って、知るっていう

ことが大切だなというふうに、このたび思いました。貴重な経験させていただきまして、ありがとうございました。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

他にございませんか。率直な感想で結構です。山代委員。

○山代委員 私も今回、初めて行かせていただいたんですが、率直な感想というと岡委員のほうに近いのかなと。確かに70デシベル、90デシベルという騒音はうるさいとは思っていますが、取り立ててびっくりするような騒音ではなかったなというのが素直な感想です。

ただ、この音っていうのが、また人間にとって厄介なもので、対象が飛行機なのか、幹線道路の横の車なのか、子供の遊び声なのかによっても違いますし、物の音が出てというのが常にあるというのと、ふだんの生活でリラックスしてるところに、ぐっと入ってくる音っていうのも、また捉え方として感覚が変わってくると思います。そこはやっぱり住民の方々に丁寧な説明と御理解をいただくというのは、今後の姿勢としては必ず必要ではないかなというふうには感じました。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

その他ございませんか。

藤川委員。

○藤川委員 今、中野委員もおっしゃってましたが、体感と数字が、ちょっと異なるのかなっていうのは、私も初めて体感しました。7年間、阿多田島のほうに通わせていただいて、音の経験だけは人一倍あると思うんですけど、それと数字が比較できなかったんですね。私が行ったときには、正直、2回しか飛ばなかったんですよ、80デシベルと60デシベル。でも、今回80デシベルで思ったより音がうるさくなかったなっていうのは、初めて体感できました。でも、それは晴天だったんですよ。多分、音が拡散されるというか、またあれが曇りだった場合、また、うるさいのかなと。その状況によって、この数字はかなり変わってくるのかなというのも思いました。

なので、引き続き、私もちょっと経験値を上げるために、阿多田島のほうには、個人的には調査行ってみたいとは思っております。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 私は初めてじゃなくて、今回も行かせてもらいましたが、皆さんと基本的には同じですけども、基地のネガティブな部分というのは、音だけじゃないんですよ。音だけじゃないんですけども、音が取りあえず一番言いやすいんですよ。だから、この建物、ガラスがありますけど、これ全部、防衛仕様ですからね。この手ものを音がするからといって、国の補助金が、どかんと入ってるわけですけども、開けてるじゃないですか、ある時期に開けてますよね、防衛から見たら、おまえら何やっとなやという感じですけども、やっぱり結局、地元に対策として、音が一番やりやすいから、音ってことになってる

んですけども、だから、やかましくないよって言ったら、要するに交渉する材料がなくなるんですけども、だから、そこはもう大人の関係だと思えますけどね。確かに、このグラフでよく分かりますけども、岩国市の町は沖合に出した段階で、一旦、静かになったんですよ。それが艦載機が来たおかげで、元の木阿弥なんですけども、阿多田島は、沖合移設をして、どっちかっていうと悪くなった上に、また艦載機が来て、さらにやかましくなったという意味で、しかも岩国市と大竹市って、県が違いますから、音は、音であるんですけども、ちょっと阿多田島の方は、今回の土地の売買もそうかもしれませんけども、何かと規制がかかってますから、そここのところは考えてあげないといけないなという気はします。音は、あくまでも手段ですかね。こう言ってはなんですけども。

ただ、今回の我々が計測したデータと今日出てる、阿多田島漁協の屋上にあるやつ、当然、並べたらリンクしてるでしょうがね。リンクしてなかったら、ええ加減やんってなりますから、そのぐらいのチェックはしてみたらいいのかなという気もしますけども。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

他にございませんか。

西村委員。

○西村委員 最後に、初めて行かれた方もいる、また、先ほど日域委員が言われたように、我々も何回も行ったんですが、一番大事なのは、島民の方がおっしゃいましたが、できる限り基地周辺対策特別委員会というものを設置しとる以上は、たまには来てくれんかとかいう声のほうで、私は印象が強かった。騒音は、皆さん行かれて分かるんですが、朝から晩まで飛んどんるわけではないんですよ。一旦、飛び立ったら四国沖まで、あるいは島根県沖まで行って、訓練して帰ってくる。その行き帰りの離着陸のときだけ騒音が響くんで、一日中この周りを飛び回るのはないけど、阿多田の島民から言わしたら、データに基づいて防衛といろいろやってくれるんなら、どういうふうにやっとなんかとか、あるいは今後こういうことも聞いてもらいたいというのが、ここに呼んで話合いの場を持つよりは、委員会として年に何回か出向いていくほうが、私は誠意が通じるように島民の方との話で感じました。決して文句ばかり言うのではないんだと、よくしてもらったという声も聞きました。だけど、それは一部の方かも分かんけど、やはり漁業者として睡眠時間に飛び回るとか、それから、生活のリズムが狂うわけやから、そういう意味でも話合いの場を持つのが必要ではないかということも、このたびも行って感じました。

以上でございます。

○山崎委員長 ありがとうございます。

いろいろ御意見を伺いましたが、全体として、引き続き研究といいますか、勉強機会を持ってできればという意見ではなかったかというふうに思うんですが、こういうまとめ方でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 それでは、引き続いて、そういった対策、騒音についての勉強会、調査をしていくと、議会としてもいうことを今後の課題として上げて、調査結果の報告については、

それぐらいで終わりたいと思います。

また、この結果を受けて、今後どういふことが必要なのかということについて、皆さんのほうで提案があれば、お伺いをいたしますが、今後の基地周辺対策特別委員会としての活動の仕方とか、こういうことを手がけたらどうかとかいふようなことがありましたら、お伺いをいたします。

岡委員。

○岡委員 各委員もいろいろ忙しい中で、この提案というのも、さらにもう1つっていうのもあれなんですけど、ただその先ほど私が申しました鉄道脇とか、国道脇、ここは民間航空の進入路下っていうのがないですけども、ちょっとそこでの比較、そこではどういったデシベルになるのかということのを計測してみたいと思います。

例えば、この近くですとみどり橋のそばの県営住宅あたりの鉄道音とか、あるいは立戸4丁目の国道脇であるとか、あるいは、すぐその市役所から出たところのガード下の、ガード下で測るのではなくて、ガード下のそばの住宅の前とか、そういうのをもし可能であれば、やってみたいとは思っております。

以上です。

○山崎委員長 その調査というのは、基地周辺対策特別委員会として、その騒音を調査することで、どういうことに役立てたいという部分をちょっと説明できませんですかね。何のために調査を、例えば、そういうところ、国道とか、あるいは場所はいろいろなところでやる必要があるのかということについての必要性を少し御説明いただけたらと思うんですが。

○岡委員 そこは、大変、私も苦しいところなんですけれども、まず、理由は、単に比較するということです。この社会の中に、いろんな騒音があつて、阿多田島の騒音と他の騒音ってのは、どんなような関係にあるのかということのをまず押さえておきたい。これは基本の基本だというふうに、やはり思います。

ただ、私がちょっと説明が苦しいというのは、やはりそういったところ、私がさっき言ったところで、実際かなりうるさいはずで、それで単純な数値だけを比較する、先ほどからも何人かの委員おっしゃいましたけども、デシベルだけでは、やっぱり分からない住民の迷惑というのもある。阿多田島の住民ですね。だから、そこが過小評価されるとちょっと私、やはりまた今回みたいな困惑な部分があるなと思い、その部分は、提案しながらも、ちょっと苦しいなと思う部分というのがあるということです。

○山崎委員長 ただいまの岡委員の意見について、御意見等があれば。

日域委員。

○日域委員 だから、一番、オリジンというか、一番元の数値はデシベルですよ。ただ、デシベルがお昼どきなんか聞こえてくると、夜中の、真夜中に聞こえてくるのでは、迷惑度は違うだろうと。そういうことを加味してW値とか、L d e nとか、どういう計算するのか詳細は知りませんが、要するに、本来、静かであるべき時間帯の音は数値を掛けて大きくするとかしてやってるわけですよ。それも、それですけども、それと、そこまではかなり理性的といいますか、計算で何とかするんですけども、この個人差があり

まして、例えば、自衛隊で岩国市に勤めてる人が飛行機やかましいって、多分、思わないと思いますし、ピアノ殺人ってありましたよね、上の階のフロアの子供がピアノを弾いて、やかましいというやつがありましたけど、あれ我が子が弾くんだったら、やかましくないわけですよね。ピアノをかうてやったんだから、おお、やと練習始めたかって喜んですけども、よその子だったらやかましくて、また今から始めるぞと待ってるわけですよね。そして部屋いるときにボンと鳴ったら、ほらやり出したって、また嫌な思いするんですけども、だから最後は人間の感情ですから、非常に難しいんですけども。

それと、私と知り合いの黒川の鉄道のそばに住んでる人は、わしゃ、夜、静かだったら寝られんって、それは少し強がりだと思いますけども、言っていましたから、個人差がありますよね、相当ね。

だから、その辺はある程度、把握しながら、この委員会でどこまで手を広げるかっていうのはあると思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

他に今の御意見があれば。

例えば、線路脇の騒音と阿多田島の騒音を比べてみて、大きく変わらないではないか、だから我慢しなさいというのは、ちょっと私は筋が違うと思うんですが、そういったことをこの基地周辺対策特別委員会としてやるべきかどうかということになると、私は、少し疑問があるような気がするんですけども。

実は、今日、この後、広報広聴特別委員会があつて、それから、市長、副市長が出席できる小方まちづくり特別委員会が午前中でないと開催できないという状況がありまして、午後、出張だそうでした、そういった意味で時間に制約がありますので、誠に申し訳ないんですが、この辺で今回の会議を終了させていただいて、また後日、開かせていただくことに。今の岡委員の提案については、ちょっと検討を重ねる必要があると思いますので、よろしくお願いをいたします。

そういったところで、この問題については、終わります。

実は、議会報告会で、この特別委員会として報告することがあれば、議論をいただければと思うんですが、別にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 なければ、他の委員会の報告事項ということで、まとめてもらおうということと、基地周辺対策特別委員会としては提案しないということによろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 それでは、以上をもちまして基地周辺対策特別委員会を閉会いたします。

全ての日程を終了いたしました。どうもありがとうございました。

10時39分 閉会